

武蔵野



交配

ネギ

ときむね

時宗

BUNCHING ONION TOKIMUNE F1

耐暑性に優れ、
欠株の少ない
早生タイプの
一本ネギ



株式会社 武蔵野種苗園

ときむね



時宗 (MSI-1242)

ネギ



**耐暑性および耐寒性に優れ、適応する
作型は夏秋どり、秋冬どり(年内)と幅広い。
夏秋どりでは定植後の生育が早く
早期の収穫が見込める。
秋冬どりでは越夏性に優れ欠株少なく
秋以降の生育が早く収量性が高い。**

特性

- 定植後の生育が早く、夏秋どりに適する。
- 越夏性に優れその後の葉鞘の太りが早く、秋冬どり(年内)に適する。
- 草姿は立性で草勢はやや旺盛である。
- 葉身部は長くなり過ぎず、風による葉折れが少ない。

栽培の要点

育苗:良苗を作ることが良品多収の第一歩である。育苗時の生育の不揃いは収穫まで影響する。播種後は発芽適温を確保して一斉発芽を心がける。チェーンボット、セルトレイの育苗の場合、培土量が少ないので灌水量に注意する。初期は根の伸長が不十分のため、水分が不足すると発芽不良や生育の不揃いにつながる。一方で過湿になると病害発生を含めた湿害が発生しやすくなってしまう。播種から発芽揃いまでは培土が乾かないように管理し、特にセルトレイはムラがないよう注意する。苗が大きくなるに従い灌水量は控えめにし、軟弱徒長を予防する。

施肥:定植2週間前までに10a当り完熟堆肥を2~3t、苦土石灰100kg程度を施す。施肥量は基肥と追肥を合わせて10a当りの成分量でチッソ15~25kg、リン酸25~35kg、カリ15~25kgを目安として、生育に応じて追肥の量を調整する。

定植:うね幅80~100cm、株間2~3cmで定植する。圃場が極度に乾燥している状態を避けて定植することが望ましく、やむを得ない場合は定植後十分に灌水する。

土寄せ:土寄せは少量ずつ回数多く実施する。1回目は削り込みとし定植後30日頃に行い、その後生育に応じて倒伏しない程度に収穫までに3~4回行う。このとき土寄せの量が多すぎると太りの遅れや曲がりの原因となるので注意する。特に秋冬どりの作型での高温期の土寄せは根が切られることによるダメージが大きいため極力控えるようにする。最終土寄せは高温期では腐敗しやすいので襟の下5cmまでとし、低温期は襟部が埋まる程度とする。最終土寄せは収穫日から逆算して行い、収穫適期を逃さず高品質のネギを収穫できるように心がける。

栽培上の注意点

- 特に高温時の葉鞘部の伸長性が早く、細く仕上がらないよう太りを待ってから土寄せを実施する。
- 高温、乾燥に強く越夏性に優れる特性を有するが、極端な過湿を嫌うため圃場内に水が溜まらないよう排水対策をする。
- 吸肥力が強く施肥量が多いと草姿が乱れるため、基準となる施肥量を守る。
- 耐寒性は優れるが、強い寒さに何度も遭遇すると葉の傷みが生じるため、年内までの収穫で計画する。

作 型	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
夏 秋 どり		●	×	×								●
秋 冬 どり		●		●	×	×						

作型表の見方 ● 播種 × 定植 ■ 収穫期



株式会社 武蔵野種苗園
THE MUSASHINO SEED CO.,LTD.

〒171-0022 東京都豊島区南池袋 1-26-10
TEL 03-3986-0715(代) FAX 03-3986-0716

<http://www.musaseed.co.jp/>

特約店